

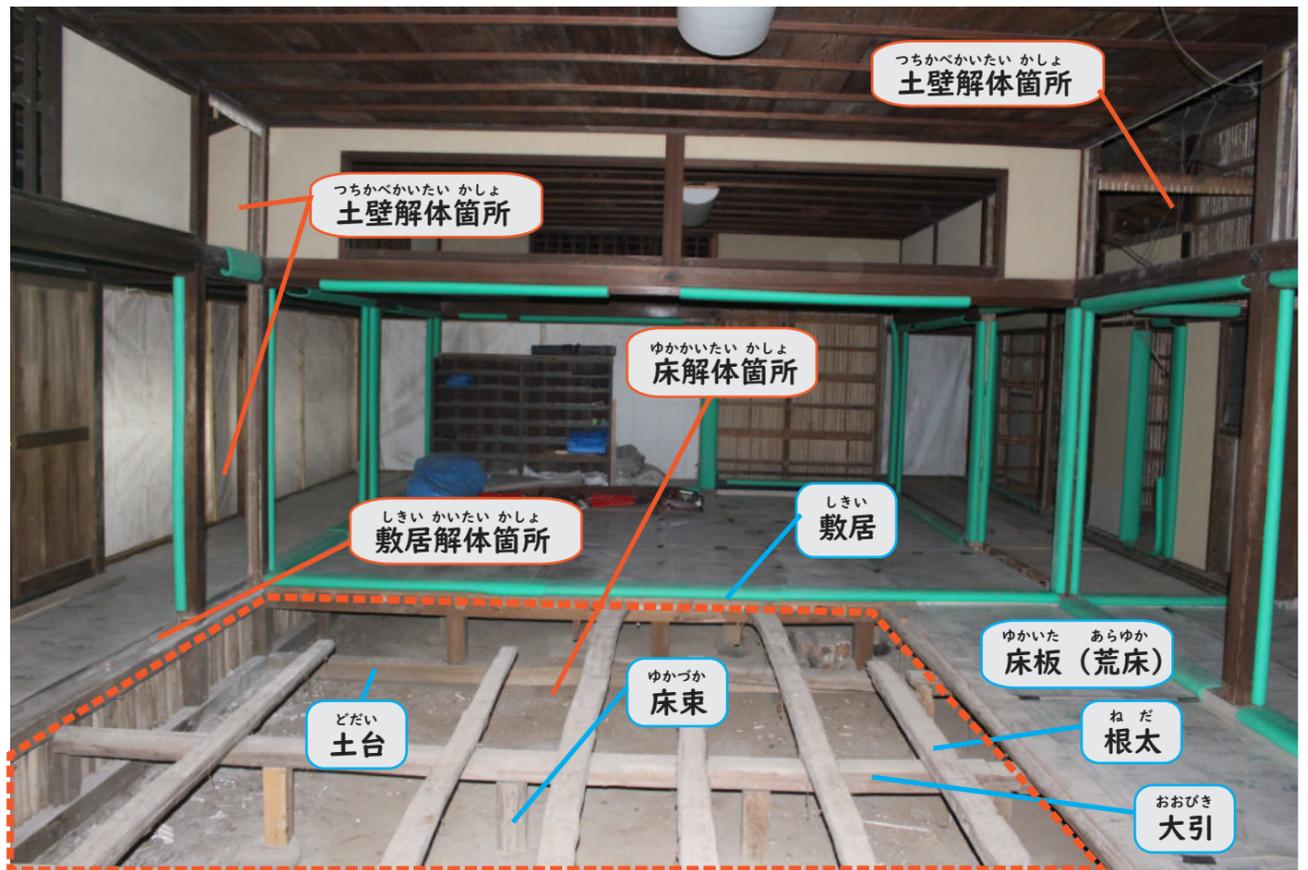
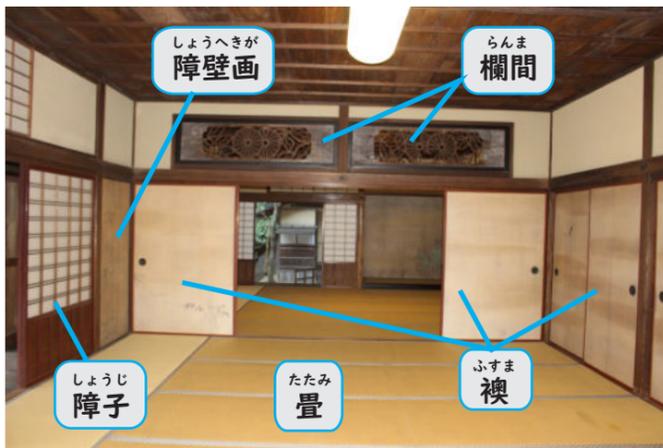
工事の げんば 現場より

今はこんな様子だよ。



1月3週目

旧東慶寺仏殿に引き続き、月華殿も大規模保存修理工事が始まっています。外部には屋根葺替等の工事が安全に行えるよう、足場を作り周囲を囲む「素屋根」が建てられ、建物の外観は見えなくなりました。一方内部では、耐震補強工事のための解体作業が行われています。解体が進むと今まで見えなかった箇所が現れて、その痕跡などを詳しく調べることで様々な新しい知見を得ることが可能となります。昭和の復旧修理工事の仕内容・大正の移築工事の様相・そして創建当初の部材について、文化財としての価値を裏付けるような情報がアップデートされています。



▲ 解体前 解体後 ▲
建具(襖・障子・欄間)の取外し、畳の撤去、壁(障壁画・土壁+土壁の下地の木部)の解体、敷居や畳の下の床(床板、床板を支える根太など)の解体が行われました。すっかり様変わり。



▲ 調査の結果、建物を構成する材料の大半は大正時代のものであることが判明しました。しかし床下に隠れていた「根太」に、現在の使用痕とは違った痕跡のある物が確認されました。恐らく当初材を転用したもので、詳しい調査がなされています。

▲ 数少ない当初材は床の間周辺で、床板も当初材と推定されます。変わった鋸跡は一人使いの前挽き大鋸で挽いた痕跡と推定されています。